

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	AT	学部・学科	国際教養学部
学 年	3 年	派遣国	オーストリア
派遣大学	ウィーン大学		
期 間	2025 年 8 月 30 日～ 2026 年 7 月 28 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / <u>学外の学生寮</u> / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / <u>2 人部屋</u> / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○(冷房のみ)	冷蔵庫	○
滞在費	約 (74,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バスと路面電車) で、約 (40) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	25,000 円	自炊や外食費
学用品購入費	5,000 円	教科書や文房具
交通費	16,500 円	
交際費	25,000 円	
その他	2000 円	
合計	73,500 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ウィーンは他のヨーロッパの都市と比べると治安は良好ですが、持ち物から目を離すと盗まれる危険があります。また、夜中の外出やデモが行われている場所へ行くことは控えたほうが良いです。銃は持つことは許されていますが、銃声は聞いたことがないです。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学／その他（ ）		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Österreichische Gesundheitskasse		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(151,743) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ウィーン）

ウィーンは、歴史と文化のある街の中で、様々なバックグラウンドを持つ学生と学び合うことのできる環境です。EU 圏内のヨーロッパの国から留学や仕事のために来ている人や移民が多いため、色々な背景を持つ人が住んでいます。オーストリアの言語はドイツ語ですが、若者は母国語・英語・ドイツ語の 3 か国語かそれ以上の言語を話せることがかなり一般的で、基本どこでも英語が通じます。ウィーンの建物は歴史があり、芸術性が高いです。ウィーンは博物館や美術館が多くあり、また音楽のコンサートも盛んに開催されている文化的な街だと思います。

公共交通機関が発達しており、交通パスを買うとウィーン市内のバス・路面電車・地下鉄の全てが乗り放題になるので非常に便利です。交通の乗り物の本数は多く、夜中も走っていることが多いです。

物価は日本と比べて高い印象です。特に外食は高いので、安くするためには自炊が必要です。コンビニはなく、スーパーは夜 8 時にはすべて閉まります。日曜日はほとんどの店は閉まっています。スーパーにはお米などアジアの食品も売っています。ウィーンにはアジアの食料品を売っているアジア系のスーパーもあるので、そこで日本食を買うことができます。ウィーンの水道水はアルプスから来ている水なので、蛇口からそのまま安全に飲むことができます。ウィーンは暖房はありますが、冷房はない建物が多いです。

ウィーンはヨーロッパの中では治安が良いと思います。週末にデモがあるときは、交通機関が使えなくなることがありました。また、公共トイレは基本的に有料です。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ウィーン大学	所在地	Spitalgasse 2, 1090 Wien
最寄空港	ウィーン国際空港	空港からの距離	公共交通機関で 1 時間程度
空港⇄大学	(地下鉄) *移動手段		
学生数	約 90,000 人	留学生数	約 1400 人
学部	<ul style="list-style-type: none"> • African Studies (Bachelor) • Ancient History and Studies in Classical Antiquity (Bachelor) • Astronomy (Bachelor - with OSA) • Biology (Bachelor - with entrance exam procedure) • Business Administration (Bachelor - with entrance exam procedure) • Business Informatics (Bachelor - with entrance exam procedure) • Byzantine Studies and Modern Greek Studies (Bachelor) • Catholic Theology (Diploma) • Chemistry (Bachelor - with entrance exam procedure) • Classical Archaeology (Bachelor) • Classical Philology (Bachelor) • Comparative Literature (Bachelor - with OSA) • Computer Science (Bachelor - with entrance exam procedure) • Earth Sciences (Bachelor) • Economics (Bachelor - with entrance exam procedure) • Education (Bachelor - with entrance exam procedure) • Egyptology (Bachelor) • English and American Studies (Bachelor - with entrance exam procedure) • European Ethnology (Bachelor) • Geography (Bachelor - with OSA) • German Philology (Bachelor - with OSA) • History (Bachelor - with OSA) • History of Art (Bachelor) • Hungarian and Finnish Studies (Bachelor) • International Business Administration (Bachelor - with entrance exam procedure) • International Legal Studies (Bachelor - with entrance exam procedure) • Islamic Theology (Bachelor) • Japanology (Bachelor - with OSA) 		

	<ul style="list-style-type: none"> • Jewish Studies (Bachelor) • Korean Studies (Bachelor - with entrance exam procedure) • Languages and Cultures of South Asia and Tibet (Bachelor) • Law (Diploma - with entrance exam procedure) • Linguistics (Bachelor) • Mass Media and Communication Science (Bachelor - with entrance exam procedure) • Mathematical Foundations of Data Science (Bachelor - with aptitude test) • Mathematics (Bachelor - with OSA) • Meteorology (Bachelor) • Musicology (Bachelor) • Nutritional Sciences (Bachelor - with entrance exam procedure) • Oriental Studies (Bachelor - with OSA) • Pharmacy (Bachelor - with entrance exam procedure) • Philosophy (Bachelor - with OSA) • Physics (Bachelor - with OSA) • Political Science (Bachelor - with entrance exam procedure) • Prehistory and Historical Archaeology (Bachelor) • Protestant Theology (Bachelor) • Psychology (Bachelor - with entrance exam procedure) • Religious Education (Bachelor) • Romance Studies (Bachelor - with OSA) • Scandinavian Studies (Bachelor) • Sinology (Bachelor - with OSA) • Slavonic Studies (Bachelor - with OSA) • Social and Cultural Anthropology (Bachelor - with entrance exam procedure) • Sociology (Bachelor - with entrance exam procedure) • Sport and Human Movement Science (Bachelor - with sporting aptitude admission test) • Statistics and Data Analytics (Bachelor - with OSA) • Theatre, Film and Media Studies (Bachelor - with OSA) • Transcultural Communication (Bachelor - with entrance exam procedure) <p>*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。</p>
学部/専攻	<p>English and American Studies</p> <p>*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。</p>

2. 週間スケジュール

① (`10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1				Language in a Social Context	
2		Phonetic Transcription			
3	Tutorial	Assistant Teacher of a Japanese class	Introduction to the of Language 2	Assistant Teacher of a Japanese class	
4	Tandem		Tanka Circle		
5			Kultur Japan	Orchestra Practice	

② (3)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1					
2	Principles of English Language Teaching		Teaching Assistant of a Japanese class	Linguistics and Language Education	
3		Tanka Circle		Tandem	
4	Principles of English Language Teaching	Tandem			
5			Tandem	Orchestra Practice	

※ 1・2 が午前、2・3・4 が午後

3. 履修内容

科目	<u>Introduction to the Study of Language 2</u>		
履修期間	2025 年 10 月から 2026 年 1 月	単位数	5ECTs
授業内容／形態	言語学について広く学ぶ講義の一つで、この講義では音声学と音韻論（phonetics & phonology）、形態論（morphology）、統語論（syntax）を英語で学ぶ。毎回英語論文を読む予習が必要で、また IPA（国際音声記号）の自主学習が必須。噂によると学部で一番難しい（勉強時間が必要な）講義らしい。主に、教授がスライドを使って進める一斉授業。学期末に筆記テストがある。		
成績	2		
YCU 振替予定	科目	言語学	
	単位数	2	
	担当教員	有井 巴	

科目	<u>Language in a Social Context</u>		
履修期間	2025 年 10 月から 2026 年 1 月	単位数	3 ECTs
授業内容／形態	言語学の特に音声学と音韻論、社会言語論（sociolinguistics）、語用論（pragmatics）、母語獲得（first language acquisition）、第二言語習得論（second language acquisition）について学ぶ。毎回英語論文を読む予習と IPA の自主学習が必須。主に、教授がスライドを使って進める一斉授業。学期末に筆記テストがある。		
成績	4		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	<u>Kultur Japan</u>		
履修期間	2025 年 10 月から 2026 年 1 月	単位数	3 ECTs
授業内容／形態	日本の文化や歴史についてのドイツ語での講義。主に、教授がスライドを使って進める一斉授業。学期末に筆記テストがあるが、英語で受験可能。		
成績	2		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目)	

	単位数	2
	担当教員	

科目	Principles of English Language Teaching(Methodology, Materials, Media)		
履修期間	2026 年 3 月から 2026 年 6 月	単位数	4ECTs
授業内容／形態	英語の教師を目指す学生向けに開講されている講義で、英語教育や第二言語習得について、ディスカッションやペア・グループワークを通して学びます。毎回英語論文を読む課題が課されます。出席や課題提出、期末試験で総合的に評価されます。 午前と午後に同じ内容の講義がありますが、私は理解を深めるためにどちらも参加することにしました。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	第二言語習得論	
	単位数	2	
	担当教員	水倉 亮	

科目	Linguistics and Language Education		
履修期間	2026 年 3 月から 2026 年 6 月	単位数	5ECTs
授業内容／形態	英語の教師を目指す学生向けに開講されている講義で、第二言語習得や言語教育について言語学の視点で学びます。ディスカッションやペア・グループワークが中心です。期末にはグループプレゼンテーションをし、それをもとにレポートを提出します。		
成績	1		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目)	
	単位数	2	
	担当教員	なし	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

留学生生活全体を通して学んだことを、授業から学んだこと、課外活動から学んだこと、そして自分の内的な変化の3点に分けて書く。

まず、授業で学んだことは3つある。専門の言語学の授業を多く履修したことで、自分の専門知識を深めることができた。ゼミでの卒業論文に関連づけながら授業を受けていたため、卒業論文での研究のヒントを得ることができた。さらに、前期は講義中心の授業を受けていたが、後期はディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションが中心の授業だったため、英語でディスカッションをしたり自分の意見を述べたりする力が伸びたと感じる。英語がネイティブ級にできる学生についていくことは大変だったが、それを乗り越えるために努力した経験も今後の糧になるだろう。そして、勉強を通して英語の能力も上がったように感じる。

課外活動では、大学オーケストラへの参加、短歌サークルの設立、日本語授業のボランティアをした。私は、ウィーンでオーケストラに入団しヴィオラを演奏することが一つの夢だったが、それを達成することができた。現地のオーケストラに入って一つの目標に向かって練習を重ねることは、非常に良い経験になった。そこでであった人と仲良くなったり、指示がドイツ語のためドイツ語のリスニングが向上したとを感じる。そのオーケストラの上手な人を真似して練習することで、ヴィオラも少し上達した。興味深かったのは、日本のオーケストラとウィーンのオーケストラの違いである。私は日本でもオーケストラに入っていたが、日本とウィーンではかなり練習風景が違うことが印象的であった。例えば、日本では練習時間前に演奏者が座席に待機するのが普通だが、ウィーンでは練習開始の時間に人が来ること、ウィーンでは指示がない待ち時間の時はガムをかんだりスマホを見たりしてもいいこと、足を組んで演奏しても注意されないこと、本番のタイムスケジュールが細かく設定されていないことなどだ。日本ではありえないと思えることがウィーンではあたりまえであったことに驚き、自分が今まで従っていた規範は何がもとになっていたのか疑うきっかけになった。人々の考え方が音楽に表れていると感じた瞬間もあり、音楽を通して言葉を越えた交流ができたことがとてもよい体験だった。

短歌サークルの活動は、自分に対しての挑戦だった。もともと自分の趣味である短歌を広めたいという強い思いがあったが、一緒に活動してくれる友達や周りの学生に恵まれて短歌サークルを設立することができた。短歌をまったく知らない、日本語を学ぶ学生に一から短歌を教えることは工夫が必要だったが、彼らは日本語母語話者なら思いつかない質問や発想があり興味深かった。この経験が、私に国際交流や日本語教育の興味を持たせるきっかけになった。日本でも短歌サークルを作っていたが、最終的には日本とウィーン大学の短歌サークルでオンラインでつないで活動できた時は、今までの自分が頑張って作り上げてきたものがつながった瞬間でとてもうれしかった。この活動を通して、リーダーシップや行動力が上がり、メンバーを集めるための広報の経験を積むことができた。これは今後の自信につながるだろう。

日本語授業のボランティアは、日本語の面白さに気づくきっかけになった。学生に日本語を教えることを通して、日本語母語話者である自分では気づかない言葉の疑問を投げかけ

られることが多く、それらに興味を持った。そのボランティアは留学の前半しかやらなかったが、後半はその経験から日本語教育について勉強することにしたので、実践と理論を両方学べてよかったと思う。

内面的にも大きな変化があった。私は留学を通して、行動力が上り積極的になり、社交的・外交的になった。私は日本では友達が少なく、内気で初対面の人に話しかけることが苦手なほうだったが、留学中はいろいろな人と友達になるためにたくさんの人に自分から話しかけ、人と話すことが得意になった。自分の中での友達の定義が変わり、今までは自分が人と打ち解けるのに時間がかかったが、留学を経て、一日話ただけでも気が合えば友達と呼べるようになった。英語では物事をはっきり言うことが求められるので、自分の意見をはっきり言うようになった。また、留学前は旅行はあまりしていなかったが、留学中は14か国に旅行へ行き、自分が行ったことのない場所でいろいろな経験をする楽しさや重要性を学んだ。友達と旅行をしたときの対話から、「他人がどう思うかは他人の責任であって、自分の責任ではない」という考え方を学び、自分が今後の人生で選択するときの自分だけの軸ができたように思う。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今後は、留学生活で学んだことを社会に還元したいと思っている。具体的には、私のように海外経験を通して自分のやりたいことに気づいたり自分を深く知ることができる人をサポートするような活動に関わりたい。それに関するインターンシップをする予定である。また、留学生活で磨いた語学力を落とさないように、語学の勉強を継続したい。横市の授業でも今後も積極的に英語の授業を履修しようと考えている。留学中に仲良くなった友達とは離れても、連絡は取り続けたい。

大学卒業後は、留学中に興味を持った日本語教育を深めるために、大学院に進学したいと考えている。そのために資格の勉強が必要なので、今後もその勉強を続けていきたい。大学院卒業後は留学経験を生かして、「ことばで日本と世界をつなぐ架け橋」になれるような仕事をしたいと思っている。それについてさらに志望範囲を狭めるとともに、その最終目標に向かって、今後も邁進していきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学は留学前の準備が非常に大事だと思います。留学に必要な費用や手続きはもちろん、どんな留学生活にしたいかをよく考えて目標を立て、事前にたくさん調べておくことをお勧めします。例えば私の場合は、現地のオーケストラに入りたかったので、留学前からそのオーディションの練習をしていました。語学の勉強もとても大切です。現地に行ってから使えるようになるのではなく、留学が始まる前までに言葉を使える状態にしておくことが重要です。また、私は授業は英語で受講していましたが、第二外国語で二年半ドイツ語を学んでいたことが現地の人と仲良くなるのに非常に役立ちました。授業を英語で受講する人でも、ドイツ語を少し知っているだけで世界が広がると思います。

留学中は、やりたいことはすべてやる行動力が大事です。また、話しかけられることや誘われることを待たずに、自分から人に話しかけて交流する人を増やしていくことが重要だと思います。日々の気づきや苦しいことを日記などに書いて記録に残すことも、後から振り返るために重要です。留学中は日本語が恋しくなることもあります。語学を向上させたいければ、自分から日本人コミュニティには近づかない、何か検索するときは外国語を使うといった工夫が必要だと思います。

留学後に何をしたいか、留学の経験を今後どう生かしたいかを常に考えながら行動することも意識の一つだと思います。留学をただの「楽しかった思い出」に終わらせないために、留学の次のステップを意識すると、迷ったときに目標が明確になりやすいと思います。